

平成 22 年度病虫害防除所職員等中央研修の開催

農林水産省消費・安全局は、都道府県病虫害防除所職員等の病虫害防除に係る知識の修得を図るため、毎年中央研修を開催している。

平成 22 年度は、12 月 6 日～9 日の 4 日間、横浜第 2 合同庁舎及び植物防疫所研修センターにおいて、

39 都府県の病虫害防除所等から 52 名、植物防疫所から 5 名が参加して実施された。



研修では、植物防疫課による「植物防疫行政」、農産安全管理課農薬対策室による「農薬行政」のほか、農林水産消費安全技術センターによる「農薬登録に必要な事項について」、中央農業総合研究センターによる「防除所の現場

で想定されるデータサンプリングと解析手法について」、静岡県病虫害防除所による「静岡県における病虫害発生予察の経済的効果」、岩手県農林水産部による「流行盛期のリンゴ斑点落葉病の発病程度に関するコホート内症例対象研究について」の講義が行われた。

植物防疫所は、「侵入警戒調査対象病虫害の解説」、「アザミウマ亜科の識別」、「糸状菌病、細菌病、ウイルス病の同定について」及び「線



虫の同定について」の講義・実習を担当した。本研修の成果が、病虫害防除業務に生かされることを期待したい。

海外のニュース

欧州でニンジンから検出された病原細菌 *Candidatus Liberibacter solanacearum*

2008 年、フィンランドにおいて、葉巻、葉の黄化及び紫化、わい化、二次根の異常増殖等の症状を示すニンジンから *Candidatus Liberibacter solanacearum*（以下 CLs）が検出された（Munyanza *et al.*, 2010）。本症状は、1970 年代から欧州北部及び中部地域で報告されていたが、*Trioza apicalis*（トガリキジラミ科の一種、日本未発生）による障害と考えられていた。しかし、病徴を示したニンジンや無病徴のニンジンを試験し、CLs の 16S rDNA 領域を増幅できるプライマーを用いて PCR を行ったところ、病徴を示したニンジンの 80%、無病徴のニンジンの 5.6%から特異的 DNA 断片の増幅が確認され、その配列は、CLs と 99.9%一致した。また、他の遺伝子領域（リボソームのタンパク質遺伝子）の配列においても CLs と 97.9%一致した。このことから、ニンジンに当該症状を引き起こす病原体は、CLs と推定された。

CLs は、2008 年にニュージーランドでトマトに葉の黄化、わい化を起こし問題となった新病害の病原体と推定されており、新たに報告、命名された細菌の一種である。

また、CLs は 1990 年代中頃から中米、2000 年には、米国でも確認されたジャガイモ塊茎に褐色の縞や斑紋が現れる“Zebra Chip”症状の病原細菌とも考えられている。Zebra chip 症状は、当初、ジャガイモトガリキジラミ（*Bactericera cockerelli*、日本未発生）による障害と考えられていたが、本虫は CLs の媒介虫であることも判明した。

なお、本菌は、カンキツグリーニング病菌 *C. L. asiaticus* 等と近縁であるが、これまでのところ、本菌がかんきつに感染するとの報告はない。

参考文献

Munyanza *et al.*, (2010) *Plant Dis.* 94:639.

Munyanza *et al.*, (2010) *J. Econ. Entomol.* 103(4): 1060-1070.

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 金田 昌士

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>